

平成23年度第2回弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会
会議録

日時：平成24年1月16日（月） 午後6時半～午後8時40分
場所：船沢公民館中研修室
出席：澁谷リーダー、メンバー10名 計11名（欠席者なし）
事務局：3名

1 開会（定刻）

2 前回会議録の確認

- ・事前提出のあった修正意見への対応案について事務局から簡単に説明し、修正内容を確認した。
- ・市のホームページにおいて会議録を公開することについても了解を得た。

3 作業

（1）第1回懇談会の振り返り

前回概観した航空写真をもとに、森林部分を色分けした資料をプロジェクターで投影し、弥生いこいの広場隣接地がどのように変化してきたを振り返った。

（2）マインドマップの作成

リーダーから以下のとおり説明したうえで作業を行った。

- ・メンバー個人としての色々な考えやアイデアを組み合わせ、そこから話を広げていくための手法として、マインドマップを活用する。
- ・マインドマップは、単語を沢山ならべていき、それらをグルーピングすることによって一つのものを創り出す手法。
- ・今回は自己紹介を兼ねたものを作成するが、その際、「弥生跡地」についての項目は必ず記載すること。
- ・次回は、各メンバーのマインドマップから「弥生跡地」に関する部分だけを抽出して組み合わせたものに、さらに情報を付け加えていく。

（3）発表

各メンバーが順番に発表し、全員で情報を共有した。

4 作業後の主なやりとり

【澁谷リーダー】

これまでこの土地の利活用に関わってきた方々の思いと、この懇談会の提案がかけ離れ過ぎるのは望ましくない考える。

そこで今回は、もう少し考えを整理したうえで、これまで関わってきた方々も呼んで色々な意見を聞きながら進めたい。これにより混ぜ合わせる材料が出揃い、色々な意見が見えてくると思う。

雪がとけた頃に、沢山のアイデアや意見を、実際にどこでやればいいのかという話も含めて、少し形にしたい。

机上だけでなく現場を踏まえた形で進めていければ良いと考えている。

【阿部】

現地に行ったことのない人もいるので、今のままだと意見を出しにくいのではないかと。現地を見ていないと判断する材料がないと思う。

【澁谷リーダー】

現地の状況がわからなくても良いのではないかと。他の人の意見に便乗しても良いし、今はまだ、この場所でどうこうするとか、場所を特定して議論する段階ではないと考えている。

【阿部】

沈砂池の浚渫のような具体的な話が突然出てきた状況で、現地がよくわからない人が意見を出せるのかということ、私は気にしている。

【佐藤】

懇談会では今年の秋までに計画を決めてしまうものか？目途はいつ頃か？

【事務局】（高木）

来年度いっぱいまでまとめることを考えている。

ただ、ここでの議論を一つにまとめることは難しいことだと思うので、仮に意見がまとまらない場合でも、無理の一つにまとめず、ざっくりとしたものをいくつか出していただければありがたい。

【佐藤】

弥生町会の住人だが、大通りから見たことがあるだけで土地の内部はわからない。一度現場をみてから話を進めていく方が良いのではないかと。

【澁谷リーダー】

全体を見渡すだけなら、雪がある時の方が見やすいし歩きやすいが、地形的な変化を見るには良いがそれ以外が見えないので、3月は適さないかと思う。

【竹浪】

全体を見渡すならば3月頃が一番良い。2月の懇談会をやった後、3月に見に行く機会があれば良いと思う。

【佐藤】

ある程度雪が薄くならないといけないので3月はまだ早いのでは。歩ける程度になったらということで良いではないのか。

【澁谷】

現地を見なければならぬのは事実だが、その前に色々な絵空事を話しあっても良いと思う。その後で実際に現地に行き、あのアイデアだったらこの場所がいいじゃないか、という話もできると思う。

もう一回くらい意見をとりまとめて、実際に現地に入ることにしたい。

【阿部】

沈砂池は、ポリシートを敷いて水を貯めているが、このシートは、50年はもつと言う人もいれば50年で壊れると言う人もいる。これに関する知識もある程度必要。どのようなものか調べていただけないものか。

【事務局】（高木）

沈砂池は、あくまでも仮設として造られた。

その下の調整池は完成したものではないが、全て完成した場合の何割かの機能は確保できていると確認している。

土木課の担当者によると、自然が復元したため土砂の流出は少なくなっていくものの、土砂の流出と堆積自体はなくなるということ。

沈砂池は、調整池への土砂の堆積を未然に防ぐ機能を果たしており、防災機能に関わるものだから、市として責任ある維持管理をしなければならない。

土砂の流出は少なくなるにしろ、少しずつ沈砂池の機能が失われていくので、全部でなくとも、できるだけ早く浚渫したほうが良いと考えている。

【佐藤】

沈砂池の深さはどのくらいか？

【事務局】（坪田）

深さは1m程度で、現在60～70cmくらいの堆積があるようだ。

【澁谷】

局所的な議論を言い出せば時間が足りなくなる。

まずは大枠を決めていきたいので、次回は、今回皆さんが書いたものを取りまとめた資料を叩き台にして、議論を進めたい。

【竹浪】

弥生ネットとしても、色々な人の意見がこの場に反映されるようにしたいと考えている。

先日、弥生ネット主催で検討会を開いた。色々な意見が出されたが、その内容を懇談会に情報提供しても良いか？

（参加者が了解し、資料を配付。）

【竹浪】

弥生ネットの検討会でも沈砂池の浚渫の件が議論になった。

できれば、どう判断したかがわかる詳しい資料を出していただきたい。

【事務局】（高木）

説明には、ある程度専門的な見方ができる人も必要と考える。

【澁谷】

防災の面では、時期をみて専門家から意見をいただきたい。

【事務局】（高木）

弘前大学との共同研究の際に安全面から検証していただいた先生に、アドバイザーという位置づけで話を伺うことは可能。

5. 閉会

最後に、次回の日程調整を行い、2月21日（火）の18時30分から船沢公民館中研修室にて開催することを確認し、第2回懇談会を閉会した。